

烏山地区
ミニコミ紙
第118号
令和8年6月16日



ふれあい

バックナンバーは区のホームページで
ご覧いただけます。
← こちらのQRコードからどうぞ！

発行/烏山地区ミニコミ紙編集委員会
事務局/烏山まちづくりセンター TEL3300-5420

中学生に聞いてみた！ —烏山の今と未来—

烏山地区の未来を担う中学生たちは、今どんなことを感じているのでしょうか。烏山中学校、上祖師谷中学校、芦花中学校の3つの区立中学校と、私立の佼成学園女子中学校の生徒さんたちにお話を聞く機会をいただきました。

週末の過ごし方を聞いてみると、カラオケ、ハンバーガーショップ、公園、図書館、児童館、烏山区民センター地下の卓球室など、身近な場所の名前がたくさん出てきました。カラオケについては、東京都の青少年健全育成条例により保護者同伴なしの場合は原則18時までと定められていますが、話してくれた生徒さんは全員、時間をきちんと守っているとのこと。ひと安心です。

地区への要望では、率直な声をたくさん聞かせてもらいました。「プリクラがないから調布や仙川まで行くんです」「映画館やライブハウスがほしい」「踏切が閉まっている時間が長すぎる」「狭い道で自転車と車のすれ違いが怖い」「古着屋が少ない」「スケボーや球技ができる場所がない」。そして特に多かったのが「居場所がない」という声です。夏休みなど長期休暇中は図書館も満員になってしまい、家以外にゆっくり過ごせる場所がないというのは、なるほど切実な問題だと感じました。



↑インタビューの様子②

こうした声を聞いて思い出したのが、烏山地域に隣接する船橋地区にある「希望丘青少年交流センター（愛称・アップス）」です。世田谷区が公募した若者や地域の関係団体による「運営委員会」が、若者・地域との連携・協力しながら運営している若者向けのフリースペースで、一人でふらっと立ち寄っても、友人と集まっても使える人気の施設です。烏山地区にも、こういった気軽に使える居場所があればいいなと感じます。

一方で、地元への愛着もしっかり感じられました。「区民センター前広場のイベントが多くて好き」「庶民的なお店が多い雰囲気がいい」「夜道の照明が明るくて安心して帰れる」「新宿や渋谷へのアクセスがよくて便利」など、烏山の暮らしやすさをちゃんと評価してくれているのが嬉しかったです。

地域の課題として、烏山に拠点を置く「ひかりの輪」（オウム真理教の流れを汲む団体）についても聞いてみました。「名前は聞いたことがある」「親から聞いたけど詳しくは知らない」「知らない」という答えが大半でした。地下鉄サリン事件をリアルタイムで知らない世代が増えている今、地域が抱える課題をどう伝えていくかは、私たち大人が考えるべき大切なことだと改めて感じました。



↑インタビューの様子①

インタビューに応じてくれた生徒さんたちは、皆さんとても真摯で、しっかりしていました。「中学生の意見を大人の世代にも聞いてもらえる機会があるといいですね」と語ってくれた生徒さんの言葉が、特に印象に残っています。子どもでも大人でもない、そんな過渡期にいる彼ら・彼女らが誇れる烏山とはどんな町でしょう。その問いを忘れずに、まちづくりを考えていきたいものですね。



↑インタビューの様子④



↑インタビューの様子③

烏山区民センター学習室

夏休み、冬休み、春休みなど学校が長期のお休みに入ると、烏山区民センターの一部会議室が中学生・高校生等を対象とした学習室として開放されます。詳しくは長期休みの前に区ホームページをご覧ください。

その他の学習室については区ホームページ
【ページ ID : 10789】

新任校長先生、副校長先生のご紹介

令和 8 年度 4 月よりお世話になる校長先生、副校長先生にご挨拶をお寄せいただきました。
※全て 4 月にお寄せいただいたご挨拶です。

～校長先生～

【烏山中学校 加瀬校長】



4月より烏山中学校の校長に着任いたしました加瀬 康夫（かせ やすお）と申します。昨年度まで世田谷区立駒留中学校で勤務しておりました。同じ世田谷区内で勤めていながらあまり知らなかった千歳烏山駅周辺の活気・賑わいを感じながら通勤をしております。まだ新年度が始まり、あまり日数は経っておりませんが、地域の方々に見守られ、明るく元気な子どもたちが育っている印象があります。地域の方々、保護者の皆様には様々な場面でお世話になりますし、時にはご迷惑やご心配をおかけしてしまう場面もあるかと思いますが、教職員がチームとして一丸となり教育活動を行ってまいりますので、ご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

【烏山小学校 村田校長】



4月より烏山小学校の校長に着任した村田 奈緒美（むらた なおみ）です。世田谷区立三宿小学校から異動となりました。烏山小学校は、自然豊かな地域で、季節の花や仙川の景色、鴨、シラサギを見ながらの通勤に日々心を癒されています。子どもたちは、はつらつとして、穏やかで落ち着いた印象です。創立153年の歴史と伝統があり、身の引き締まる思いです。地域の皆様、保護者の皆様に温かく支えていただき、心強いです。ご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

～副校長先生～

【芦花中学校 太田副校長】



4月より芦花中学校の副校長に着任いたしました、太田 梢（おおた こずえ）と申します。昨年度までは、世田谷区立緑丘中学校に勤務しておりました。緑丘中学校では、音楽を教えており、特に専門の合唱に力を入れて子どもたちと一緒に歌声あふれる学校を目指してまいりました。芦花中学校では、保護者の方々や地域のみなさまと協力して子どもたちが安心・安全に学校生活が過ごせるように尽力していきたいです。この地域のことについて、まだわからないことが多いですが、みなさまに教えていただきながら子どもたちのために頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【武蔵丘小学校 佐々木副校長】



このたび、副校長として着任いたしました佐々木 哲通（ささき てつみち）と申します。品川区からの異動でやってまいりました。学校に着任してまだ日は浅いですが、地域の皆様の熱い思いや支援を日々感じているところです。子どもたちは地域の中で育ち、学び、多くのことを吸収していきます。学校だけでなく、地域全体で見守り支えていただけることが、子どもたちの大きな力となります。これからも、保護者の皆様や地域の方々と連携しながら、安心して学べる環境づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【芦花小学校 羽鳥副校長】



4月より芦花小学校の副校長に着任いたしました、羽鳥 尚（はとり ひさし）と申します。昨年度までは、区立の桜小学校に勤務しておりました。区内の城山小、桜小と勤務して、世田谷区は5年目になります。芦花小の子どもたちと出会って初めに感じたのは、とても素直で、親切な子が多いということでした。私が挨拶をすると気持ち良い挨拶を返してくれる子も多く、気持ちよく毎日を過ごしています。地域の皆様、保護者の皆様に温かく見守っていただきながら、芦花小の子どもたちのために、そして芦花小学校の発展のために尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【烏山北小学校 堀内副校長】



4月より烏山北小学校の副校長に着任いたしました、堀内 正人（ほりうち まさと）と申します。昨年度まで、八王子市立長沼小学校に勤務しておりました。烏山北小学校に着任してまず感じたのは、子どもたちは明るく個性豊かで、地域・保護者の方は、とても温かく協力的ということでした。朝、門に立っていると、子どもだけではなく、地域の方も積極的に挨拶をしてくださったり、気さくにお話をしてくださったりと、地域との繋がりを感じています。この地域のごことは、まだまだ分からないことが多いですが、地域の皆様、保護者の皆様に様々なことを教えていただきながら、烏山北小学校のために全力で頑張っております。どうぞ、よろしくお願いいたします。



烏山地域キャラクター
「からぴょん」

これからよろしくお願ひします！

小さな公園～北烏山すいせん公園～

烏山通りと上を走る中央自動車道が交差する北烏山9丁目に小さな公園、北烏山すいせん公園があります。閑静な住宅地の入り口にあり、公園の隣には青々と麦畑が広がりキャベツや枝豆などが植えられた畑が懐かしい風景となり、目に飛び込みます。

小さな公園の真ん中には、赤葉南天を真ん中にして周りをパンジー、小菊、菜の花が彩り良く丸く植えられていて、小さな子達が楽しそうにぐるぐる回っていました。畑との境には紫やピンクのツツジが満開で入り口から見渡せる小さな公園にはベンチも椅子がわりの石もなく、ちょっと一休みとはいきませんでした。小さなベンチがあるといいなあー。

小さな公園シリーズも3回目となりました。次は何処を探そうか？と思っていますが、みなさんからも此処はとありましたらご一報下さい。（5月中旬取材）



↑北烏山すいせん公園の様子

歴史探訪 ～蘆花と芦花～

烏山地域の東側、北烏山、南烏山、粕谷の一部、そして杉並区上高井戸の西側周辺には、駅、病院、店舗、学校、マンション、団地などに、「芦花」「芦花公園」「ROKA」といった名がつく施設が数多くあります。しかしながら、「芦花」という地名は世田谷区にも杉並区にも存在しません。この「芦花」ルーツを皆さんはご存知でしょうか。

実はこの名前、明治から大正にかけて活躍した文豪、徳富蘆花（とくとみ ろか）がこの地に住んでいたことに由来しています。「徳富蘆花」はペンネームで、本名は徳富健次郎です。長編小説『不如帰』で一躍有名になり、『自然と人生』『思出の記』『黒潮』『みみずのたはこと』などの名作を世に送り出しました。

蘆花は1907年（明治40年）、神奈川県の逗子から現在の世田谷区粕谷に移り住みまし

た。当時の住所は東京府北多摩郡千歳村大字粕谷でした。余談ですが、逗子にも彼が住んでいたことに由来する「蘆花記念公園」があります。徳富蘆花は世田谷の住まいを「恒春園（こうしゅんえん）」と名付け、自ら土にまみれる「晴耕雨読」の生活を送りました。

1927年に蘆花が亡くなった後、遺族によって旧邸宅や耕作地が当時の東京市に寄贈され、1938年に「蘆花恒春園」として開園しました。現在も続くこの公園は、その後の整備を経て、周囲の広場なども含めて一般的に「芦花公園」と呼ばれるようになりました。この際、常用漢字の制限や読みやすさの観点から、略字体の「芦」が使われるようになりましたが、正式な「蘆花恒春園」の表記は当時のまま大切に守られています。

公園の開園に合わせ、京王線の上高井戸駅が1937年に「芦花公園駅」へと改称されました。駅名や広大な都立公園の名前が定着したことで、周辺の北烏山・南烏山・粕谷・上高井戸エリアの公共施設やマンション、イベント名にまで「芦花」の名が広く使われるようになったのです。作家のペンネームがこれほど地域に根付いている例は、全国的にも非常に珍しいのではないのでしょうか。他に作家の名が地元の愛称となっている例には、新宿区の「漱石公園」（夏目漱石）、武蔵野市・三鷹市の「独歩の森」（国木田独歩）、福岡県北九州市小倉の「鷗外通り」などがあります。

話を「芦花」に戻しましょう。この地域には芦花保育園、芦花小学校、芦花中学校、芦花高校が揃っており、ここで生まれ育った方々はずっとこの名前に囲まれて過ごします。ちなみに「芦」の字の書き順ですが、くさかんむりの下は「ノ」「ノ」「コ」の順に書きます。実はこの部分はドアを意味する「戸」の旧字体である「戸」なのです。駅の表示などもそうなっていますので、機会があればぜひ観察してみてください。

かつては武蔵野の面影が色濃い農村だったこの場所が、一人の作家が愛した場所として記憶され、今では地域のアイデンティティとなっているのは非常に興味深い歴史ですね。



ミニコミ紙「ふれあい」は、烏山地区にお住いの方で構成される烏山地区身近なまちづくり推進協議会から選出された編集委員によって作成しています。

©世田谷区